

氏名	伏見直哉
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第291号
学位授与の日付	昭和43年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	内耳開窓術の適応に対する補聴器装用の診断的意義
論文審査委員	教授 高原 滋夫 教授 福原 武 教授 西田 勇

学位論文内容の要旨

内耳開窓術は非炎症性の伝音難聴耳（臨床的耳硬化症，鑑骨固着症等）に対して行なわれる聴力改善手術の一つであり手術の適応をあやまらねば必ず聴力改善が得られる特異なものである。従って手術の適応を決定するために患者が手術によりどれ程よくきこえるようになるかを術前にあらかじめ予想することが必要である。術後聴力の予想は従来 Carhart 等により術前の骨導値を補正して得られる純音聴力による予測が行なわれているが，著者は純音のみならず日常生活に必須の語音聴力の予想をも併せ行なうことが更に重要であると考え術前に語音聴力検査を行ない，同時に補聴器を装用して補聴効果を測定し，これらが術後得られる聴力といかなる関係にあるかを検討した結果次の如き結論を得た。尚，対象とした症例は昭和33年9月より昭和39年12月迄の6年間に岡山大学医学部耳鼻科において水平半規管の開窓術が行なわれた22症例のうち19耳である。

1. 術後の純音聴力は平均 28.9dB の改善を得て 26.4dB loss となり術前の予想値 23.2dB loss と極めて近い値を示した。
2. 術後の語音聴力は平均 18.0dB 改善されて 25.3dB loss となり，この改善も術前の補聴効果 15.5dB と非常に近い値を示した。
3. 術前に補聴器装用によって得られる語音明瞭度曲線は術後裸耳のそれと極めて近似しており，術後に得られる語音聴力の予想値と考えることが出来る。

論文審査の結果の要旨

本研究は術後の聴力に関する診断について研究したもので、内耳開窓術に於ける術後聴力の予想は術前の骨導聴力域値より算出されているが、著者は日常生活と関係深い語音聴力の予想値を得るため、語音聴力測定に際し補聴器を装用して補聴効果を測定し、これが開窓術後に得られる語音聴力の増進と極めて近似値にあることを開窓術施行19耳の検討より証明した重要な知見であり価値ある業績と認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。